

「地図豆」の地図を広げて街歩き

31-1 麻布十番と広尾を歩く（距離約 4.0km）

【街歩きの概要】

街歩きの前に、1万分の1地形図その他を広げて麻布十番と広尾を見る。

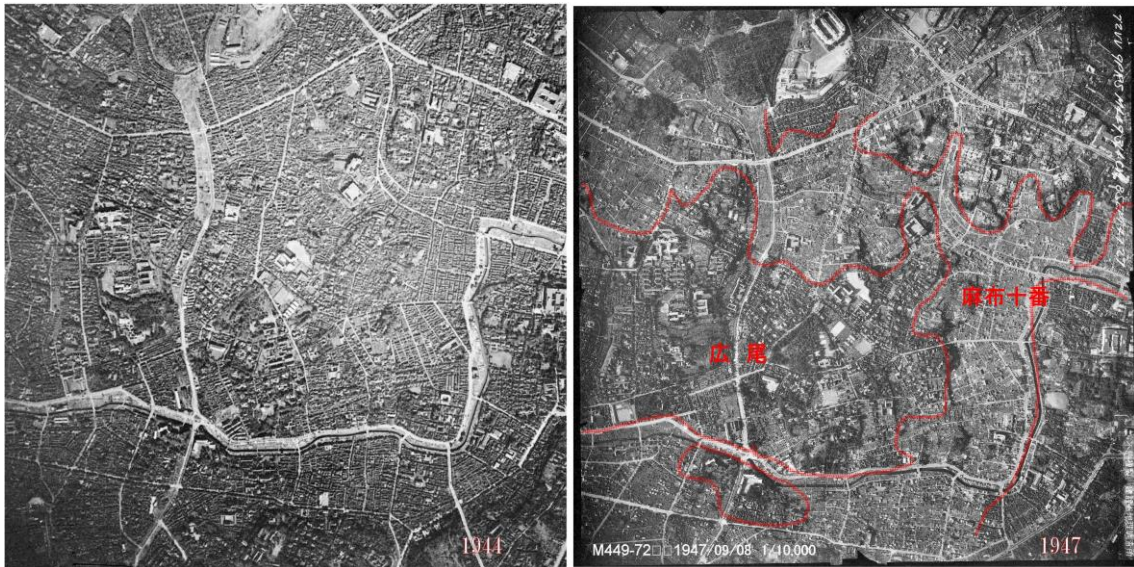
首都高速2号線の下を流れる渋谷川沿いにある麻布十番と広尾の二つの街は、西や北に高台を見る河川周辺低地に位置していて、似た者同士のような街である。何が同じで、何がことなるのかに注目して街を歩いてみる。



麻布・広尾あたりの「江戸切絵図」（人文社）

「江戸切絵図」からは、以下のことが容易に読み取れる。

- ①主要道路網は、現在もそのままの形で引き継がれていること。
- ②辺りは、ほとんど大名屋敷で占められていること。
- ③しかし、現麻布十番辺りだけは、西に寺町を配した町民地（東の低地だけ）であること。
- ④現有栖川宮記念公園は、南部美濃守敷地の形がそのまま引き継がれていること。
- ⑤広尾の祥雲寺の北は、畑地が広がるちであったことなど。



麻布・広尾あたりの戦災を受ける前（1944）と後（1947）の空中写真

戦争被害は、下町低地（赤線で囲まれた灰色部分）ほど激しかったことがわかる。また、広尾に比べて麻布十番の被害が大きかった。

【道順】

東京メトロ麻布十番駅→善福寺・アメリカ公使館跡→柳の井戸→きみちゃんの像→たい焼きの「浪花屋」→暗闇坂・大黒坂・狸坂・一本松坂→仙台坂上五叉路→有栖川宮記念公園→広尾商店街→祥雲寺→東京メトロ広尾駅

【街歩き解説】

東京メトロ麻布十番駅から商店街をめざすと、どこまでも道は上りである。地図を見ると麻布十番の標高は5メートル（広尾の商店街は標高8メートル）、見上げる先にある高級マンションが並ぶ六本木通りは標高32メートルもある。高級住宅地は、価格とともに標高も高い。そのようなことを頭に入れて、地図を手にして、街歩きを始める。

麻布十番の西には、台地がせまっっていて、そのハケ（関東では台地の崖をこう呼ぶ）の周りには10数か所にお寺の記号が並んでいる。中でも、ひときわ大きい善福寺を訪ねる。

ここは、明治期にはアメリカ公使館が置かれたところ。福沢諭吉墓、越路吹雪碑などがある山門の左手にある「逆さイチョウ」の大木がみごとである。境内には、その他にもいくつか、みどころがあるから探してみる。

境内の散策を終わって通りへもどる。その前に、ハケの存在を証明するように門前にある「柳の井戸」をのぞいてみる。こんこんと湧いている清水は、関東大震災や太平洋戦争の際にも重用されたそうで、喧騒の中の泉であるが、いまでも飲めそうなくらいに澄んでいる。

すぐ先の大黒坂下の分離帯にある小さな公園で、野口雨情の童謡「赤い靴」のもとになった、そして、ちょっと悲しいいきさつから親と別れてアメリカ人宣教師に預けられた「きみちゃん」の像を見る。

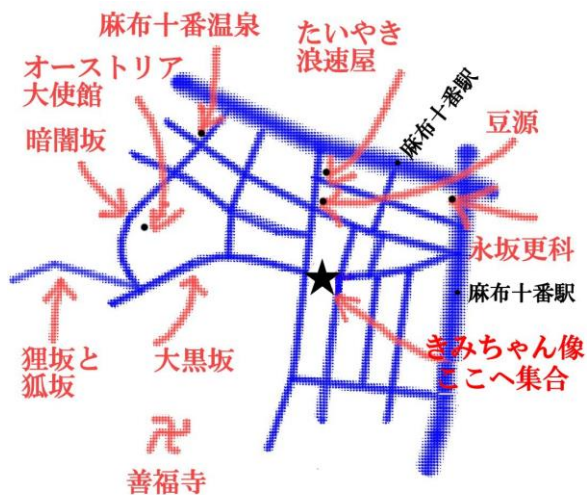
実は、アメリカに渡って、幸せに暮らしていると思われていたきみちゃんは、病のため東京の教会孤児院に預けられ、短い生涯を閉じていたのである。



麻布十番商店街



「きみちゃんの像」と麻布十番商店街の“おかき”



麻布十番の主な見どころ

次は通りを北上し、店先の匂いに誘惑されて、豆菓子「豆源」で“おかき”を、たい焼きの「浪花屋」では湯気の上がる魚？を1ぴきを口に入れる。

たい焼きを食べると、「『しっぽがうまい』といつも思うのだが、『しっぽだけください』と言ったら店の人はどう反応するだろう」などと馬鹿なことを考えながら、ヒルズ族との格差を感じる庶民的な通りをあとにして、坂好きの人にはたまらない雰囲気のある暗闇坂を上る。



暗闇坂

坂上には、その暗闇坂のほか、大黒坂、狸坂、一本松坂が四方に広がっている。地図読み人は、地図の等高線をたどって上り下りを確認して納得する。

辺りの主な寺院

賢宗寺：佐賀藩菩提寺・鍋島家墓、都内で最も見事な大名墓、餓死者の慕列

善福寺：浅草寺に次ぐ古刹、アメリカ公使館跡、福沢諭吉墓、越路吹雪墓

麻布十番について

麻布十番の地名の由来について、幕府が近くを流れる古川の河川改修工事をした（1675～）ときの十番工区だったという説があるほど、町域の大部分は古川に続く低地である。西の高まり近くは今でも寺院が多く残るように寺町である。一方、高級住宅地が多い麻布地区にあって、低地部には大規模なビルや商業施設は少なく、雑居ビルや商店に庶民的な住宅地が混在して下町の風情を多く残している。

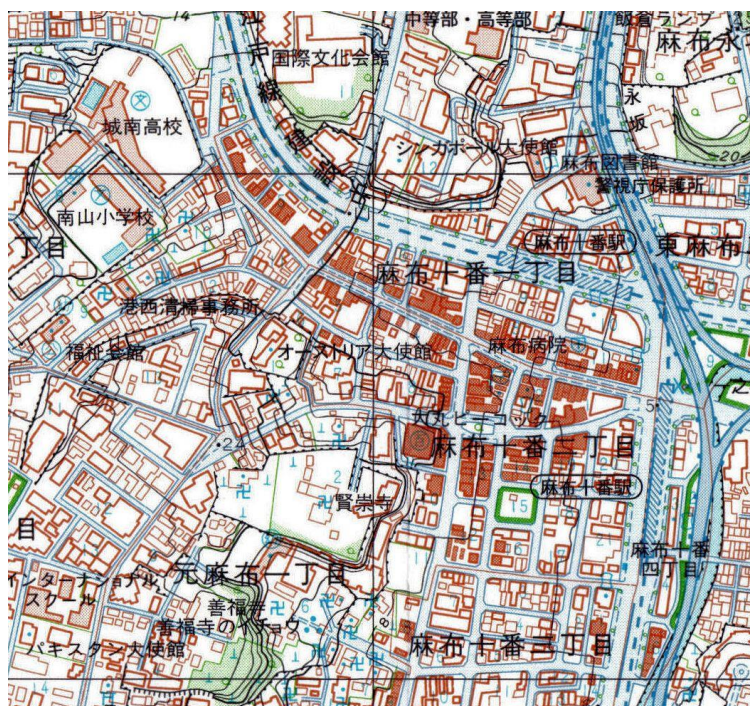


『江戸名所図会』

江戸名所図会「善福寺」



現麻布十番辺り（「五千分の一東京図」）



現麻布十番辺り（1/10,000 地形図「渋谷」）

そののちは、一本松坂で見たトウモロコシを立てたようなマンションとは対照的に、蔦が壁面を埋めつくしたやわらかい雰囲気を感じられる教会建物などを見ながら、仙台坂上の五叉路あるいは六叉路だろうと思われる複雑な交差点を経て、私には縁のない麻布中学・高校を横目に見ながら「有栖川宮記念公園」と向かう。有栖川宮邸後でもあった庭園内には、等高線が5本ほど重なる（約10m）深い渓谷があって、おどろくほどの流水があるが、水は人工的なものようである。

かつて、旧参謀本部前庭にあった有栖川宮熾仁親王像が残る同公園の東隅には、都市内では珍しい地上設置の三角点「本村」がある。ルートを外れるが、フィンランド大使館の石積みは旧鷹司公爵邸のものだという。



安藤記念教会会堂



有栖川宮記念公園の溪谷と三角点「本村」

都会であることを忘れさせるほどの緑陰が多い公園内には、大型犬を連れて外国人の比率が高い。ただ、大型犬から危険にならないように、柵をめぐらして子ども遊ばせる風景は、ちょっと異様である。

公園を抜けると、すぐに広尾商店街だ。

路上に椅子をならべたカフェがあり、ナショナル麻布や明治屋ストアには高級食材が並び、庶民的な麻布十番商店街の雰囲気とは少し異なる。大使館などが、ぐるっと立ち並ぶ広尾の街は、ずっと以前から「オシャレ」が似合っていたようだ。

広尾の祥雲寺で、初代中央気象台長荒井郁之助の墓や黒田（長政）家墓地などの大名墓所を訪ねる私には、オープンカフェで食べるチョコレートムースより、たい焼きのしっぽが似合っているが、「有栖川宮記念公園」の緑も捨てがたいものがある。



広尾商店街のオープンカフェと祥雲寺門前通り

広尾について

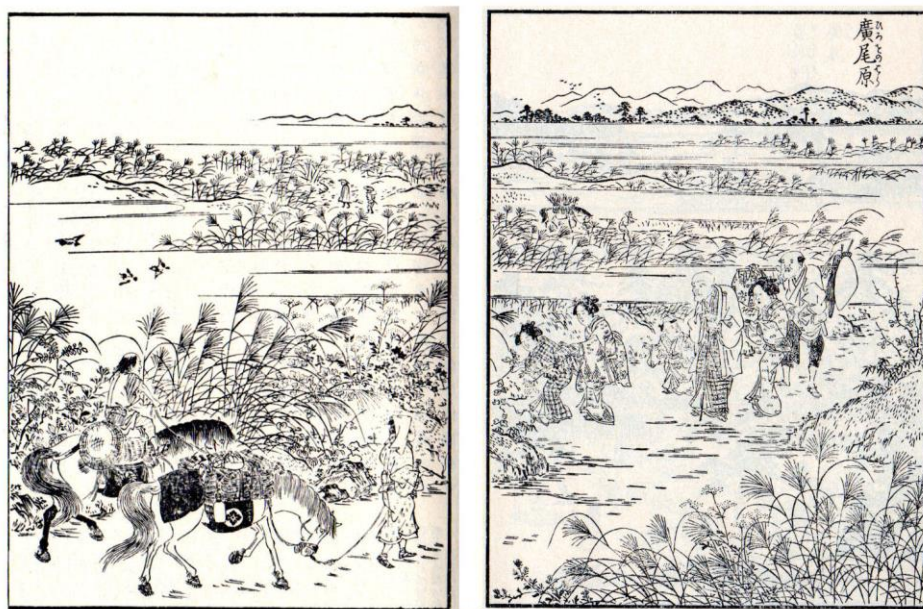
古くは「樋籠」（ひろう）と呼ばれる広大な原野であったといい、文政（1818）から天保年間に描かれた『江戸名所図会』には「広尾原」とあって、一面にススキが広がる地で、庶民の遊歩散策の場所であった。戦災を逃れた祥雲寺近くは、今も門前町のようなすを残す。

広尾と麻布十番、背後の高台に各国大使館を多く見ることは同じで、しかも麻布十番に比べて遅れて発展したにもかかわらず広尾が東京を代表する高級住宅街となり、麻布十番に庶民的なものが残るのはなぜだろう。後者が低地であるという地形的な要素のほか、戦災による被災割合が高く開発の余地があったにもかかわらず、そこには細分化された土地の権利関係があったのかもしれない。

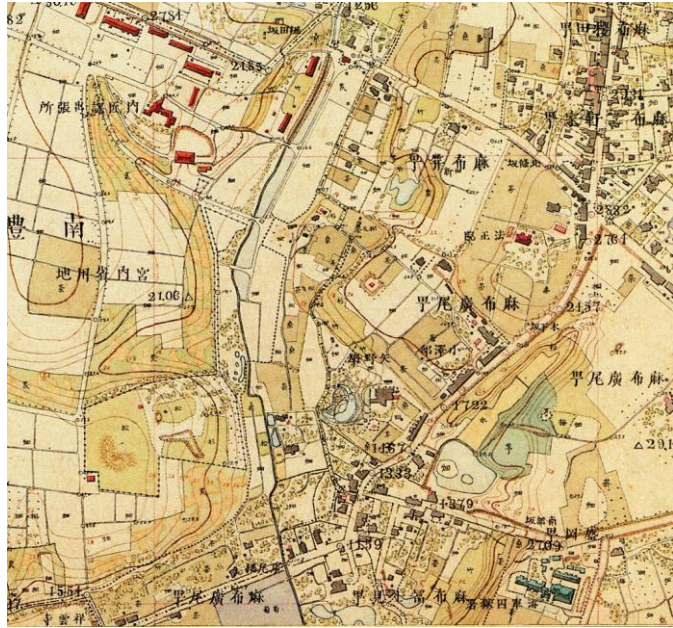
その他の主な寺院

祥雲寺：福岡藩黒田家のほか諸大名の江戸菩提寺であって、黒田長政墓、室生流家元代々と常盤津文字太夫、洋画家高橋由一の墓などのほか、地図測量に近いところでは初代中央気象台長荒井郁之助の墓がある。また、境内には鼠塚があって、これは明治33年（1900）のペスト流行の際に防疫ために買い上げられなどして駆除された鼠の慰霊碑である。ペストで命を失った人々のことを思い浮かべつつ、立派な碑を見上げると複雑な気持ちになる。

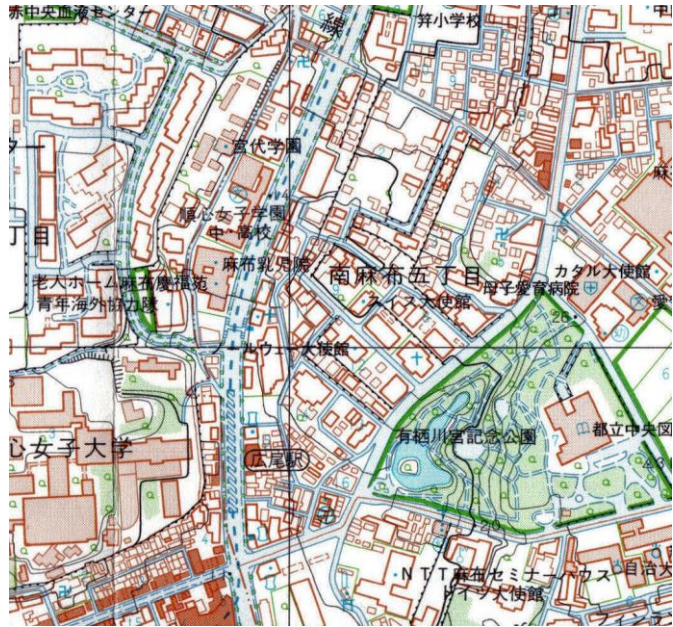
光林寺：ハリス米駐日公使の通訳で中の橋で薩摩藩士に殺されたヒュースケンの墓が残る。



江戸名所図会「広尾原」

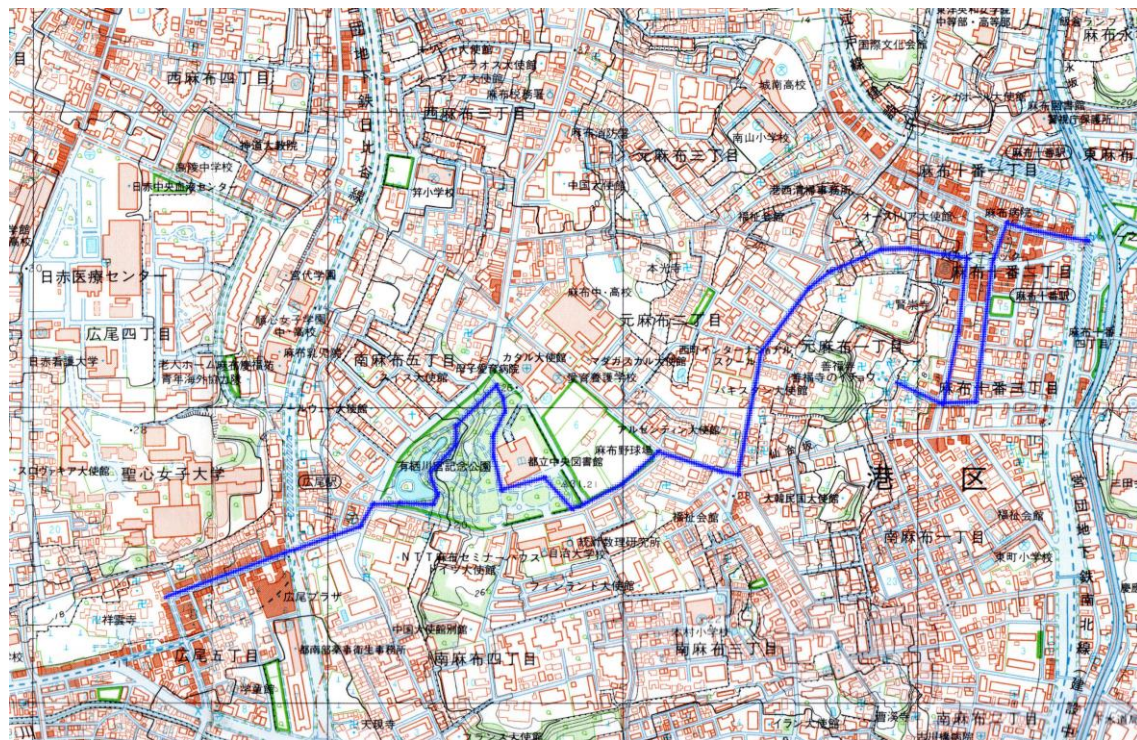


広尾辺り（「五千分の一東京図」）



広尾辺り（1/10,000 地形図「渋谷」）

ルートマップ



+* * * + オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu +* * * +